

自立と共生！

たくましい日本！

No. 199号

民主党 中川正春の 永田町かわら版

2003年9月3日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128

FAX 03-3508-3428

<http://www.MASAHARU.GR.JP>E-mail g03063@shugiin.go.jp

○国連特使、デメロと会談

次に訪問したのは国連からイラクに派遣されたデメロ事務総長特別代表です。彼はブラジル生まれ、フランスで教育を受け、東チモールの国連行政官などを務めました。日本から自衛隊のPKOが東チモールで活動している事もあって、日本の状況をよく理解している人です。

彼のポイントは二つ。「アメリカの統治からイラク人の統治へ早く切り替えるべき。その為に、現在のイラク人25人による暫定評議会が来年までに憲法を起草して、国民投票にかけると同時に、選挙による国会の召集を実現するためのあらゆる支援を、国連はしていくつもりだ。もう一つは、この国の復興支援の国際的な枠組みを作ること。その為に、今年の10月、スペインのマドリッドで国際支援国会議を開く準備をすすめている。」

彼は、治安についても、2種類の不安定要素を指摘します。「一つは、泥棒、強盗、麻薬やギャング団などの刑事犯罪。アメリカの侵攻前に収監されていた何千人という犯罪者が全て釈放されてしまったこともあって、深刻な状況が続いています。これは、早急に警察組織を立ち上げて対応することになっているが、ちゃんと訓練して機能するまでに時間がかかる。もう一つが政治的に動機付けされた組織的テロ活動を含む反アメリカ軍運動。地域的には、バグダッド、北部のモスルとラマディを結ぶ三角地帯がアメリカ軍にとって非常に危ない。これがゲリラ的戦闘になっているだけに、いつおさまって中立化するか、今のところ誰にも予測がつかない。今は、この戦闘は、スンニー派の居住地域に限られているが、これがさらに広がるかどうかは分からない。現在、シーア派の指導者は、自らの国民を抑えているが、6週間ほど前にイギリス軍がこの地域で攻撃された事を考えると、将来予断を許さない状況だ。」状況の推移を、国連の立場からデメロは非常に厳しく見ていると感じま

「自由になったイラクにお来いただき、歓迎する。米国への支持、特にイラク特措法について難しい政治判断をされた小泉総理に、米国を代表して感謝申し上げたい。」これが、ブレマー長官の第一声でした。

治安についてもブレマー長官は、「イラク全土のほとんどが平和な状況にある。問題となるのは、ティクリートとバグダッドの間のごく限られた地域だ。」と言います。中谷議員が、日本から自衛隊を派遣する場合、どのようなニーズがあるのか知りたいと言う問いを投げかけましたが、「私は軍人ではないので分からない。軍のことについては、後ほど予定されているサンチェス司令官にお聞き願いたい。」と、にべもない返事が返ってきました。

ブレマー長官に続いて、CPAと国際機関との窓口になっているベルカCIC議長との会談を持ちました。CPAの財源は4つ。91年以降アメリカで凍結されていたイラク資産。サダムと息子の没収財産。国連で管理されていた石油収入(オイル・フォー・フード)から復興資金に移された10億ドルとアメリカからの28億ドルの復興投資(石油部門投資を含む)。

「これから石油関連の再投資が行われ、現在の一日140万バレルの生産から2004年には一日300万バレルのレベルに戻る。これは年間120億ドルの石油輸出と見積もっており、イラクの国家財政の大半を支える。」

しかし、一方でベルカは、来年度以降の電力や水、石油産業などへの社会インフラに対する必要経費が120億ドルの収入の範囲をはるかに超えると言います。「そこを、米英などの同盟国以外の各国や国際機関、国連などが復興支援に参加して拠出してくれることを期待する。」今年の10月にスペインで予定される復興支援国会議では、具体的な投資プロジェクトを提示して各国の支援を要請することになっていると言います。日本は、在イラク高橋大使を通じて、その準備会に参加しているとのことですが、こ

した。(この項を書いた数日後に、国連への爆弾テロで、デメロ長官が命を落としました。なんとも、やり切れない悔しい気持です。)

○アメリカ占領統治機構へ

さらに、この日の午後、アメリカの占領統治を直接執行するCPAのブレマー長官に会いました。

での日本の中心的な役割を期待するということです。

一連の会談でハッキリしたのは、米国が石油資源のコントロールをするから、他の国は、自国のお金を持ってイラクの支援をして欲しいと言う話です。アメリカ占領の意味がここに読み取れます。